

2026 年 8 月 4 日

つがる西北五広域連合 つがる総合病院

NTT ドコモビジネス株式会社

つがる総合病院と NTT ドコモビジネス、 院内モバイル環境整備を起点に地域医療 DX を推進 ～西北五地域における持続可能な医療体制づくりを支援～

つがる西北五広域連合 つがる総合病院(以下 つがる総合病院)と、NTT ドコモビジネス株式会社(旧 NTT コミュニケーションズ株式会社、以下 NTT ドコモビジネス)は、つがる総合病院内において、モバイル環境整備を起点に、地域医療 DX を推進しました(以下 本取り組み)。

本取り組みにより、オンコール対応を行う医師が院外から安全に電子カルテを閲覧できる環境を整備し、救急医療における迅速な意思決定と高度急性期医療^{※1}の質向上を支援します。

1. 背景および目的

青森県の西北五地域保健医療圏は、県内 6 つの二次保健医療圏の中でも自圏域完結率が最も低い水準にあり、住民の入院医療の多くが圏域外に流出しているのが実情であり、医師および医療従事者の偏在が顕著な地域の一つです。(青森県保健医療計画) その中でもつがる総合病院は、医療機能を集約した中核病院として、高度急性期医療を担っています。特に救急医療の現場では、夜間・休日を問わず当直医師 2 名体制のほか、各診療科オンコール体制^{※3}による迅速な判断・対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、つがる総合病院は高度急性期医療における意思決定の迅速化と医療の質向上を目的に、院内モバイル環境の整備および医療 DX^{※4}を推進しています。このたび、「携帯電話に関する環境構築及びサービス提供に係る公募型プロポーザル^{※5}」を実施し、その結果、NTT ドコモビジネスの提案内容と地域 DX に関する実績が評価され、本取り組みを実施しました。

2. 本取り組みの概要と特長

本取り組みでは、院内へのスマートフォン・タブレット端末の導入と、それを安全かつ効率的に運用するための通信環境および管理基盤の整備を行いました。具体的な特徴は以下の通りです。

(1)高度急性期医療を支える「いつでも・どこでも」の診療支援環境

オンコール対応をする医師が院外にいる場合でも、電子カルテシステムを安全に閲覧できる環境を整備し、患者情報をリアルタイムに把握したうえで、当直医や院内の医療スタッフに対する適切な指示を行える体制を構築します。これにより、重症患者に対する初期対応の迅速化、専門医による意思決定の迅速化、夜間・休日における救急対応力の強化を実現します。さらに、多要素認証^{※6}および MDM(モバイルデバイス管理)^{※7}による厳格なセキュリティ管理に加え、通信経路の暗号化・アクセスログの記録により、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン^{※8}」に準拠した安全な医療情報の運用基盤を整備します。

(2)院内モバイル端末環境の整備による多職種連携の強化

スマートフォンおよびタブレット端末の導入により、チャットツールを活用した院内コミュニケーション、キャリア回線^{※9}を用いた音声通話、電子カルテ情報の共有などを実現します。これにより、医師・看護師・コメディカル^{※10}間における迅速かつ正確な情報共有を可能とし、高度急性期医療の現場において時間的なロスを最小限に抑えます。

(3)医療従事者の業務効率化と「選ばれる職場」づくり

モバイル端末の活用により、電子カルテシステムへのアクセスおよび院内連絡のデジタル化を推進し、業務負担の軽減と情報共有の迅速化を実現します。これにより、医師・看護師をはじめとする医療従事者が、高度な専門性を発揮しながら患者と向き合うことができる職場環境の整備を進めます。

(4)患者への医療サービス品質向上

デジタル基盤の整備により、より迅速かつ質の高い医療サービスの提供が可能となります。特に、高度急性期医療における初期対応の迅速化は、患者の予後改善に寄与します。あわせて、院内における待ち時間の短縮や、医療スタッフ間の情報連携強化を通じて、患者にとって安心・安全な療養環境の実現に貢献します。

3. 今後の展望

つがる総合病院は、今回の院内モバイル端末環境の整備を起点として、NTT ドコモビジネスとの連携をさらに強化し、西北五地域における高度急性期医療の質的向上に取り組みます。

今後は、集約化された中核病院としての機能を最大限に発揮するため、医療 DX を継続的に推進するとともに、圏域内の医療資源を補完する観点から、オンライン診療体制の確立や慢性期医療・看取り対応への遠隔支援についても段階的に整備し、地域医療全体を支える基盤の構築を進めます。

また、労働人口の減少が続く中においても地域医療を持続可能なものとするため、効率的なコミュニケーション環境の整備を通じて、医療従事者の満足度および定着率の向上をめざします。

つがる総合病院と NTT ドコモビジネスは、地域の患者に対する医療サービスの質の向上と、地域医療全体の持続的な発展の実現を推進します。

【つがる総合病院について】

つがる総合病院は、つがる西北五広域連合が設置・運営する医療機関として、青森県五所川原市に位置します。2014 年(平成 26 年)4 月に開院し、438 床を有する西北五地域保健医療圏の中核病院として、消化器・循環器・脳神経外科・精神科・救急医療など多様な診療機能を提供しています。地域住民の健康を守る基幹医療機関として、急性期医療を中心に幅広い疾患に対応するとともに、周辺医療機関との連携強化に取り組んでいます。所在地：青森県五所川原市字岩木町 12 番地 3 電話：0173-35-3111(代表) URL：<https://www.tsgren.jp/tsugaru-general-hospital/>

「NTT コミュニケーションズ株式会社」は 2025 年 7 月 1 日に社名を「NTT ドコモビジネス株式会社」に変更しました。私たちは、企業と地域が持続的に成長できる自律・分散・協調型社会を支える「産業・地域 DX のプラットフォーム」として、新たな価値を生み出し、豊かな社会の実現をめざします。

つながる。驚きを。幸せを。



<https://www.ntt.com/about-us/nttdocomobusiness.html>

※1：高度急性期医療とは、命に関わる重篤な状態の患者に対して、専門的かつ集中的な治療を短期間で行う医療。

※2：自圏域完結率とは、患者が居住する医療圏内で入院・治療などの医療サービスを完結できている割合。

※3：オンコール体制とは、緊急時に備え、自宅などで待機し、要請を受けて対応する勤務体制。

※4：医療 DX とは、デジタル技術を活用して医療の質向上や業務効率化、情報連携の強化を実現する取り組み。

※5：携帯電話に関する環境構築及びサービス提供に係る公募型プロポーザルとは、携帯電話端末や通信環境の整備

に関する提案を複数事業者から募り、内容・価格・実績などを総合的に評価して最適な事業者を選定する方式。

※6：多要素認証とは、パスワードに加え、生体認証やワンタイムコードなど複数の要素を組み合わせで本人確認を行うセキュリティ手法。

※7：MDM(モバイルデバイス管理)とは、スマートフォンやタブレットなどの業務用端末を一元的に管理し、セキュリティ設定や利用制御を行う仕組み。

※8：医療情報システムの安全管理に関するガイドラインとは、医療機関が電子カルテなどの医療情報を安全に管理・運用するための基準や対策を定めた厚生労働省の指針。

※9：キャリア回線とは、通信事業者(携帯電話会社など)が提供するモバイル通信ネットワーク。

※10：コメディカルとは、薬剤師・診療放射線技師・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士・臨床検査技師・臨床工学技士・管理栄養士・社会福祉士など、医師・看護師以外の医療専門職の総称。